本荘ふるさと会

本荘ふるさと会会報
第 2 号
平成 3 年 3 月 20 日
編集・発行
本荘ふるさと会会報
編集委員会
事務局
◇秋田県本荘市出戸町字尾崎17
本荘市産業経済部地域振興課
☎0184（24）4181
◇東京都大田区北馬込
荒川医院内
題字　後藤竹清

ご紹介ください 会員募集中!!

会の充実と発展・拡大を図るため新会員を募集しています。親族、知人等可能な範囲において、本荘市出身首都圏在住者をご紹介ください。

問い合せ
本荘市産業経済部地域振興課内
本荘ふるさと会 係
☎ 0184－24－4181

ふるさと本荘の首長決まる
1月27日 本荘市長選挙
柳田氏（美倉町）初当選!!

任期満了に伴うふるさと本荘の市長選挙は、4月に予定されている統一地方選挙の行方を占う前哨戦として、13万本荘由利圏民はもとより、各方面注目のうちに去る1月27日市内31ヵ所で一斉に投票が行われました。

同日午後七時十分から勤労青少年ホームで即日開票された結果、新人で前県生活環境部長の柳田　弘氏が、現職で三選を目指した小番宜一氏を破り初当選を果たしました。

柳田　弘 新市長

1月20日告示された本荘市長選挙は、三選を目指す小番宜一氏（57歳無所属現）と新人で前県生活環境部長の柳田　弘氏（59歳無所属新）の二人が立候補し、厳しい寒さの中で一週間にわたって激しい選挙戦が繰り広げられました。

その中で柳田氏は、保革相乗りの政党のほか、諸団体や企業などの推薦を取りつけ、多数の支持者たちに支えられ、小番氏に854票の差をつけて見事初当選に輝きました。

両候補とも最後までせりあい、有権者の関心も次第に高まり、投票日は雪の舞うあいにくの天気にもかかわらず、前回をやや上回る84・5%の高い投票率となりました。

本荘市長選挙開票結果

投票者数	27,851人
投票総数	27,850票
有効投票	27,534票
無効投票	316票
無効投票率	1.13%
不受理	1票
当　柳田　弘（無所属新）	14,194票
次　小番宜一（無所属現）	13,340票

新市長のプロフィール

昭和6年4月18日生まれ。本荘高校、岩手大学農学部卒業。29年に県庁入り、主に農政部畑を歩み、仙北農林事務所長、農地整備課長、由利地方部長を経て平成元年4月から生活環境部長。市長選出馬のため昨年11月同部長を辞職。

趣味は油絵とスポーツ観戦。好きな言葉は「一期一会」美容院経営の妻桂子さん、母ウメヨさん、長男の四人暮らし。

住所　本荘市美倉町一二ノ一

初登庁の柳田市長（H 3．1．8）

新市長の抱負

このたびの市長選挙で、市民をはじめ皆様の温かいご支援により本荘市長に就任いたしました。この紙面をお借りしまして、心から感謝を申し上げます。

さて、ふるさと本荘は「山・川・海」の豊かな自然と人情味あふれるまちであります。しかし、やもすれば良い物を持ちながら、その良さや内蔵しているエネルギーを十分発揮できないで来たような感があります。

この未知の可能性を秘めた素晴しい財産の活用と、エネルギーの爆発こそが本荘市発展の原動力と確信します。

私は、選挙の中で「信頼される市政の確立」を第一に掲げながら市民総参加の市政を信条に「活力にあふれる個性豊かなまちづくり」を訴え続けました。この中で若者の〝本荘を何んとかしなければ―〟という熱い想いがひしひしと感じられました。

この若者達の変革の意識と、まちづくりに対する「夢とロマン」を大切にしながら、本荘の未来を担う人材の育成こそが最重要課題と考えます。

ふるさと会の皆様には、大所高所からのご指導、ご助言をお願いするとともに、〝ふるさと本荘〟を末永く見守っていただければ幸いです。

市役所までの道すがら、私は大きな声で挨拶します。さすがに大半の方が驚きますが、「笑顔で元気が出るまち」へのムードづくりは挨拶が第一歩と考えます。挨拶がこだまする元気なまちを夢見て、今日も『お早ようございます!』

第2回本荘ふるさと会 総会盛大に開かる

平成二年度総会が昨年の11月23日、会員、来賓、関係者約250名が出席して、港区のホテル高輪で盛大に開催されました。

総会では、荒川七郎会長が、「本会に入会していない郷土出身者はまだおるはずもっと仲間を増やし、会の活発な活動を展開しふるさと本荘との絆を大事にしていきましょう」とあいさつ。つづいて来賓の小番市長、古村市議会副議長から50万人の入込客があった大盛況の秋田県種苗交換会の開催、新バイパス完成など、本荘市の現状と将来構想について説明がありました。

議事に入り、予算や活動計画などの審議が行われましたが、その中で、来年度事業として、本荘の花火大会、菖蒲カーニバルに合せた「ふるさと訪問ツアー」の実施や、市制40周年の協力、そして物産の販路拡大の協力が満場一致で決定されました。

引き続き、懇親パーティーが開かれ、ふるさとから持ち込まれた懐しい味や、民謡踊り、唄をたっぷり楽しみ、久し振りにあった知人・友人とのはずむ話に時のたつのも忘れていました。

あちらこちらで懐しい話が……

また、物産展示即売会場ではふるさとの食料品、民工芸品が大好評、手に持ち切れないほどの買物を宅配便で自宅に送る手続きをする会員で大変にぎわいました。

会員の声…

わが家はみんな「本荘っ子」

私は葛法、妻は石脇生まれと、もともと「本荘っ子」。

子どもたちは、埼玉生まれ。だがなぜか「本荘の子ども」であり、夏・冬休みは帰るのがあたりまえとおもっている。

石脇浜で泳ぎ、由利原を歩き、花火も見たいとせがむ。なだめながらもひじょうにうれしくおもう。

自分たちの育った本荘を少しでも多くみせたい、ふれさせてみたいと妻ともどもおもっている。

埼玉県北葛飾郡鷲宮町
阿部　敬一（葛法出身）

◇　◇　◇

ふるさと会総会に出席して

去る11月23日、第2回本荘ふるさと会に出席。丸一年振りに再会できる人々の顔が浮かぶ。会場はなつかしい本荘の香、本荘弁で溢れる。早速、物産即売場へ。あれもこれもと大袋一つになる。来賓臨席のなか能率的に議事進行。趣向を凝らした懇親パーティでは抽選で思いもよらぬ鮮魚セットを戴く。家族に何よりのおみやげを手に尾瀬山麓の我家へ急いだ一日であった。

今後、若い層の会員拡大に微力ながら努め、本会の一層の発展を心より祈念する次第である。

群馬県利根郡片品村
星野　裕子（石脇今町出身）

◇　◇　◇

今年は、どんな出会いが待っているのか、とても楽しみです。

一回目は、現住所の近い方々と同席。偶然に懐しい方と、30数年ぶりに再会。感激しました。

二回目は、出身町内別のテーブル。年代は違っても、ふるさとの山、川、海、そして学校と話題は尽きません。40年前、集団就職で一緒に上京された仲間が、今でも年に一度は必ず集まって、近況を語り励ましあっている、という素敵な話も伺いました。

〝本荘〟をふるさとに持つ大勢の方々が、近くで頑張っていらっしゃると思うと心強い感じです。

いろんな出会いが楽しめる「本荘ふるさと会」今年も会場で皆さんとお会いしたいと思います。

練馬区　**小林ミエ子**（本田仲町出身）

◇　◇　◇

月日の経つのは本当に早いもので第一回の総会が、つい此の間の様に思われていたのに、あれからあっと云う間に一年が過ぎ、昨年の11月、二度目の総会に出席しました。何んと云っても、なつかしかったのは、知人や友人を始めとする旧友に会えた事でした。

此の会のおかげで消息がわかったり色々な人達との、ふれあいが出来たり、昔話に花を咲かせるのも、此の会ならでは、と思います。

一回目と同様、二度目の総会も大盛況に終った事は、役員の皆様方始め、本荘市役所職員の方達の御協力があってこそと思います。本当に感謝して居ります。

市川市　**渡会　美子**（御門町出身）

◇　◇　◇

本荘ふるさと会について

都市計画道路の開通、学校の新築移転、そして先端技術産業をはじめとする企業の設立、レジャー施設の建設など、私は田舎を離れて約三十年、今、本荘の伸びゆく姿に大変感激いたしております。

今までは自分の生活を維持してゆくのみで満足でしたが、一昨年に発足された本荘ふるさと会の発展は、本荘市の発展にも密接につながる事と信じ、出来る限りの協力をさせていただく所存です。

横浜市緑区　**三浦　孝悦**（柴野出身）

皆様のお便りをどんどんお寄せください。お待ちしてます。

ふるさと本荘へのいざない

創刊号に続き、ふるさとへのいざないとして、本荘市の誕生と、市章・市の花・市の木・地勢・人口、そして新山神社裸まいりなどをご紹介します。

市章

市章は大正2年、当時の本荘町助役小笠原英夫氏が図案化したもので、旧亀田藩の「亀」に本荘藩の「本」を配して両藩の相互理解をあらわしている。

いまでは、亀甲からのびた6本の線を、本荘を中心に合併した6村と新市の躍進を表現していると解し町章をそのまま市章とした。

◇　◇　◇

市の花（花菖蒲）

鳥海山麓には野性の花菖蒲が咲きみだれていた。昭和37年に本荘市の市民の花として「花菖蒲」が選定されたのを機に菖蒲公園の整備・拡充がなされ、現在は一万株の菖蒲がその美しさを競っている。

花菖蒲の見ごろは、6月下旬から7月上旬にかけてである。

◇　◇　◇

市の木（黒松）

本荘市の「市の木」は、黒松である。市街地を飛砂の被害から守るため、黒松の植栽に生涯を捧げた石川善兵衛親子の偉業を称えるものであると共に、砂丘にも潮風にも強いという特長を持っているところから昭和45年に選定された。特に、市の西方は日本海に面した砂丘地帯で、冬期には特有の北西の烈風を受けるため、その役割は非常に大きい。

本荘市の成り立ち

明治に入り、各藩は版籍を奉還。由利地方は秋田県に編入され、明治12年に由利郡役所が本荘町に設置された。

続く明治22年の市町村制施行により本荘町は旧岩城藩の一部石脇村を合併して本荘町制（人口9、249人）をしき、以来由利地方の政治・経済・文化の中心として発展し、昭和29年至って、子吉・石沢・南内越・北内越・松ケ崎の6村と合併して3月31日に市制（人口38、625人）を施行、本荘市が誕生した。

近年、人口減に悩む県内にあって本荘市の人口は微増ながらも着実な伸びを示し、基幹産業の農業と共に、高度技術・先端技術産業の集積地としても発展している。

《人口の推移》

区分	合併時（S29. 2） 世帯数	人口	平成2年国調（既数） 世帯数	人口
総計	6,913	38,625	12,807	44,442
本荘	3,857	19,062	9,240	29,588
子吉	522	3,514	968	3,870
小友	437	2,903	438	1,974
石沢	625	3,897	521	2,412
南内越	410	2,752	696	2,738
北内越	418	2,679	277	1,304
松ケ崎	644	3,818	667	2,556

《位置と地勢》

市役所の位置	出戸町字尾崎17番地　東経140°03′08″　北緯39°22′58″
面積	189.52㎢　周囲　91.5km
地域	極東　三ツ方森　東経140°14′ 極西　本荘浜　東経140°01′　東西　16km 極南　山内南　北緯 39°18′ 極北　松ケ崎漁港北北緯 39°31′　南北　20km
海抜	最高 614.2m　長沢山，最低　0m　日本海

※ 図面の数字は面積　単位㎢

厳冬の風物詩　新山神社裸まいり

真冬の奇祭として全国的に有名な新山神社の裸まいりが、今年も日本海から吹き上げる烈風と、小雪の舞う1月16日、石脇・砂子・大浦地区の8町内の子供、若衆と一事業所の社員など約300人が参加して勇壮に行われた。

早朝から町内ごとに水ごりを取り、体を清めた後、白鉢巻、白腹巻にしめ縄を巻き、白足袋にわらじばき姿で、ホラ貝を鳴らし、「ジョヤサ（除夜叉）、ジョヤサ（除夜叉）」の掛声と共に、148メートルの山頂にある新山神社を目指し、延長2キロに及ぶ参道を駆け上った。

若衆たちは奉納する鏡もち、酒、魚などを担ぎながら神社を三周―裸詣唄を唄った後社殿に入り身体堅固・家内安全・五穀豊穣、それに交通安全を祈願した。

最後に、用意してきたもちや、みかんが、寒さで震えながら声援を送っていた多くの見物客に社殿からふるまわれた。

勇壮な若衆と見物客

―由来―

起源についてはっきりした記録は無い。土地の古老の話では、石脇地区の戸数が170から180にふくれ、若者の数も多くなった天保（一八三〇―一八四四）の頃からではないかとも言われている。

いわれについてもさまざまであるが、その昔、修験者が新山を守護したという伝えがあるところから、修験道の荒行の一つが名残りとして伝承されたものと見られている。

ほかにも、石脇の飛砂地帯を裸一貫で開拓した先輩をしのぶ祭りとか、その昔、半農半漁であった石脇の人々が海は大漁、陸は万作を祈り、「若者のはけ口を意気と裸の誇示に求め、女性に対しても自己の頑丈な体の見せ場」にした祭であるなど、ちがった見方もあるが、祭神が豊宇気比売神という生産の女神なので伝説もとりどりである。

石沢の沿革

石沢郷で最も古い歴史を持つのは、正平15年（一三六〇）に建立されたと伝えられている日住白山神社である。同社は、合祀以前は一ノ宮として、慶長以後本城豊前守満茂及び六郷家をはじめとして、領内外からの厚い信仰を集めてきた。

石沢の地名の由来は、岩石山沢・深奥たる地形上からである説と、応永年間に群雄割拠した由利十二頭の一人、石沢孫四郎の領地となり、居城を石沢館に築いたことによるものとする二つの説がある。天正18年（一五九〇）の太閤秀吉からの朱印状にも石沢村と称されている。また、最上義光の検地帳（慶長期）にも石沢郷とあり、この頃の石沢氏の所領は約二千石、33ヵ村であったという。

慶長7年（一六〇二）まで続いた石沢氏の支配も、同年から最上氏の所領となり、元和8年（一六二二）の改易により、一旦本多上野介の支配下になるが、翌9年には六郷氏が入部し、石沢郷を新たに14ヶ村に分割統治することになった。

その後、明治に入り版籍を奉還し秋田県に編入され、明治12年郡制となるに及んで由利郡管轄となり、明治16年に組合役場が結成された。

明治22年、町村制が実施され、12ヵ村を大字として石沢村が誕生したのである。

以後、昭和28年の町村合併促進法の成立で、本荘町と他の五ケ村と合併し、現在は、三ツ方森・山内・大築・鳥田目・一本木・館・柳生・櫛引・鳥川・鮎瀬本田・鮎瀬新田・上野・雪車町・宮沢・滝ノ沢・栗山・新山崎・湯沢の18町内から成っている。

地理的には、由利郡のほぼ中央部に在り、地区の全面積の78％を占めている山地は、東・南・北の三面を囲み、西部が子吉川に向かって僅かに展けているだけで、最高峰の長沢山（六一四メートル）を主峰とする日住山（六〇六メートル）、鬼倉山（六〇一メートル）の連峰が東北に聳えて、大内町上川大内と小友地区との境界となっている。

本荘市史民俗調査報告第一集　小友・石沢の民俗より

石沢中心部（館周辺）

本荘の話しことば ② 春

はる

「山さ　たげのご採りに行って来だがア？」
「うん。二、三日め　鳥海山の裾の中島台さ行って来てあった。
うんと　生がてて　ひどしえ背負って帰って来たな。東京さ居る娘
どごさ缶詰して送ってやりでくて讃岐缶詰工場さ頼んだったよ」
「味噌で味付けしておげば　すぐ食べるにえくて　えおな」
「ばんげ酒の肴コにして　えっぺやらねがア？」
「んだな。えな！」

本荘市五軒町　佐藤勵子（主婦）発行「本荘の話しことば」より転載

お知らせ

今年の夏はふるさと本荘で

平成三年度の一事業として、本荘の夏のイベント「川まつり花火大会」・「菖蒲カーニバル」に合わせた〝ふるさと訪問ツアー〟を左記により実施いたします。今から日程調整をしていただき、ご家族・ご友人をお誘い併せのうえ、是非ご参加ください。

尚、参加申込方法等の詳細にわたってのご案内は、4月に送付させていただきます。

一、期日　平成3年7月26日(金)～28日(日)　2泊3日
二、利用交通機関　JR臨時列車（お座敷列車）、バス
三、行程　7/26上野発22:00～車中泊、7/27観光（鳥海山・南由利原・赤田大仏）～14:00自由時間～18:00菖蒲カーニバル・花火大会　7/28本荘発9:00～上野着19:00
四、参加定員　一〇〇名
五、費用　大人一人　4万円　小人（小学6年生）まで3万円

尚、お食事は7/27の朝食から7/28の昼食まで準備します。又宿舎は本荘市内の旅館を予定しています。

◇　◇　◇

平成三年度　総会
11月24日(日)　新装の目黒雅叙園で開催予定

編集後記

この冬、ふるさと本荘では数年来のまとまった雪が降ったとか、暖冬の関東の空をお裾分けしたかった気もしています。

厳しい冬のあとの春の安らぎ、ふるさとの春が懐かしく思い起こされる季節に会報第二号をお届けします。皆様への春のプレゼントになれば幸いです。

今回も大勢の方にご協力いただきました。このあとも会員皆様の投稿、提案をお願いします。